



元役員 熊澤 さえ子  
(平成13年～平成16年)

宮城県看護連盟創立50周年おめでとうございます。

私は県の役員として、又仙台オープン病院支部の支部長として連盟活動に関わり、活動を通して連盟の果たす役割の重大さを理解しました。先人たちが作り上げた誇りと伝統を説き、広める一員であることを名誉に思います。これからも看護の夢を叶える為に連盟活動に参加・協力し、積極的に同僚や地域に伝えていきたいと思っています。

看護の代表を国政に送る選挙応援では、清水先生、南野先生、高階先生に直接お会いし、先生方の看護への思い、看護職の働く環境作りに対する熱意を側で感じる経験もできました。

また、連盟活動への参加によって政策への関心が深められたと共に、他施設の皆さんと交流を持ち看護を語り合う中で、それぞれの生き方や考え方に触れることができ、看護への思いが豊かになったのも私の財産です。

東日本大震災においては、患者さんを守る看護職のために、いち早く訪問して頂き、たくさんの支援物資と励ましの言葉をかけてもらいました。温かな思いは頑張る力となり、患者さんのために力を尽くすことができました。未曾有の危機の中、命の尊さ、看護の実力、絆を再認識しネットワークの強さにも感動致しました。

これらの貴重な体験を、専門職として期待される後輩の育成に役立て、連盟会員の増加に貢献していきたいと思っています。

看護の明るい未来のために、宮城県看護連盟が発展し続けていかれることをご祈念致します。

(仙台オープン病院)

会員 加藤 智治  
(平成15年～現在)

私は現在、仙南支部にある大泉記念病院の療養病棟で働いており、充実した日々を過ごしています。

宮城県看護連盟に加入してから早10年が経ち、言うなれば中堅連盟会員といったところでしょうか。その間様々な連盟活動に携わってきました。中でも思い出に残っているのは、南野知恵子参議院議員(元)をお迎えしたときです。当時宮城県男性看護師の会「クリエイティブみやぎ」が結成され、その仲間と仙北の地域や仙台ホテルで選挙の応援に回りました。はちまき、櫛を付けての応援、選挙関連のポスター貼りなど貴重な経験をさせて頂きました。

又、看護連盟研修の際、国会議事堂を見学したことも強く思い出に残っています。

私にとって、連盟は貴重な経験ができた場でもあり同時に、一方では良き交流の場でもあったと感じています。

これからも宮城県看護連盟の皆様と新しい連盟の歴史を築いていけるよう、一会員としてより一層努力していきたいと思っています。  
(大泉記念病院)



**がんばれ東北！ がんばれ宮城！**

元「クリエイティブ連盟みやぎ」

みやぎ男子看護師の会 会長 **佐々木 一郎**  
(平成14年～)

宮城県看護連盟創立50周年記念おめでとうございます。

「みやぎ男子看護師の会」の代表として創立50周年記念誌に投稿できることは非常に嬉しく感謝しております。「みやぎ男子看護師の会」は平成14年に選挙には欠かせない機動力と男子パワーを最大限に活用しようと元山下会長が発案され「クリエイティブ連盟みやぎ」と命名・発足して、清水嘉与子・南野知恵子両先生の選挙戦を全面支援活動しました。

清水嘉与子先生の東京総決起大会では全国連盟会員を代表して私が花束贈呈をさせていただきました。又、南野知恵子先生の東京総決起大会で応援歌を作詞・作曲して頂いた故遠藤実先生に参加した男子の会メンバー7名を紹介して頂き、宮城県看護連盟のパワーをアピールすることができました。総決起大会に参加させて頂いたことに宮城県看護連盟の会員として男子全員が大変感激致しました。両先生の選挙戦では機動力とパワーを発揮し県内を北は築館・東は石巻・南は白石と各会場を駆け回り最後に参加者全員で先生を囲み「がんばろう」コールを連呼し必勝を誓いました。更に「ポスター貼り」も工夫を施すなど連日夜遅くまでの作業が昨日のように思い出されます。

「男子看護師の会」は現在、連盟活動はしておりませんが、各メンバーは各自の病院・施設で支援活動、協力しております。又、会として年2回一泊研修で各病院の情報交換などを行い親睦を深める研修を行っています。

今後は50周年記念を節目に2年後の選挙戦に向けて「みやぎ男子看護師の会」として男子の会のパワーと機動力を宮城県看護連盟の一員として全員で支援・協力・活動して頑張りたいと考えております。これからも、協会・連盟会員はじめ各施設の方々のご理解とご協力を宜しくお願い申し上げます。









幹事 佐藤 由美  
(平成13年～現在)

私が役員となった平成13年は、清水嘉与子先生が出馬した第19回参議院議員選挙の年でした。政治や選挙にも無関心、いえ無知だった私は、連盟活動を理解していくので精一杯だった記憶があります。その中で、多くの仲間に出会い共に同じ目標に向かって学び、行動するという貴重な経験をさせていただきました。

思い出といえば、最近のことで私の心に残っているのが、高階恵美子先生の選挙に際し宮城県で開催された全国版ポリナビです。企画運営のため、各支部から20代30代の若者が委員として数名ずつ集合し、開催に至りました。開催時には、全国からパワー漲る若者たちが集結し会を盛り上げてくれましたが、企画運営に携わった宮城県メンバーが生き生きとして頼もしく感じられ、これからの宮城県看護連盟の明るい未来を感じることができました。大変嬉しかったことを覚えております。

しかし反面、看護と政治との結びつきをもっと若者に伝えていかなくてはと、その責任の重さを痛感した場面でもありました。

看護職に従事している私たちは、看護の自律、現場の問題解決のため、看護の代表者を国会に送り続けなければならないのです。その目標に向かってこれからも力を尽くしていきたいと思っております。

私は、現在も役員として活動させていただいておりますが、これまでお世話になりました皆様のおかげと感謝しております。この紙面をお借りしまして、ご指導くださいました歴代の会長初め役員の皆様にご礼申し上げます。  
(仙台厚生病院)





第一副会長 高橋 秀子  
(平成13年～現在)

日本看護連盟は1959年(昭和34年)に誕生、2年遅れて宮城県支部は1961年(昭和36年)12月に結成され、今年50周年を迎えることができ本当に喜ばしいことです。

私は、看護師ライセンスを手にしてから43年、連盟会員歴約30年となります。若かりし日の未熟で怖いもの知らずそれほど熱い情熱を抱いて連盟の道に入ったわけではないのに活動の中で清水先生や南野先生、小泉元首相や国会議員の先生方に身近でお目にかかれ、とんでもない活動をしているのではとったりもしました。

清水先生、南野先生、阿部俊子・高階恵美子議員を国会に送る活動では、連盟会員(当院は看護職全員が連盟会員)の意識の低さに何度も放り出したくなりました。それでも本日まで頑張ってきたのは、連盟役員と周囲の仲間との「人つながり絆」がありました。知恵と勇気と希望を教えた連盟が私の管理職の成長に非常に役立ち、大きな財産になったと感謝しております。

辛くもあり楽しいこともあり涙と笑いの繰り返しの活動でしたが、これからの時代だからこそ看護職は「井の中の蛙大海を知らず」ではやっていけません。看護師集団が自分の職場内での不満、要望などを世の中の人たちに知ってもらうためにも、政治を知り世間を知り人間的に大きな視野で看護を考えるようになりたいものだと余計な想いでいます。

他の職能団体と比較しても、看護連盟の活動がなければ今日のような法に守られた看護師の職場環境ではなかったと思います。大事に育てられてきた看護師はこれからも楽しく働く職場作りを目指し看護協会と連携しながら連盟活動をしていきます。

私たちは、会員数が900人位で苦しい活動をして来た諸先輩に感謝しながら、より活発に連盟活動ができる後輩育成を強化していかなければなりません。

看護連盟はこれからも働く看護師を守り応援する活動を会員の皆様と力を合わせてやっていきましょう。  
(仙台厚生病院)











